

学校教育目標	平和で持続可能な社会をめざし、自ら考え、仲間とともに高め合う子どもの育成
育成を目指す資質・能力	授業の工夫改善により、主体的に学び高めあう子どもの育成 自尊感情や道徳性を養う活動により、豊かな心を身に付けた子どもの育成 健全な生活習慣と体力づくりに取り組み、健康でたくましい子どもの育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題
	国語:「書くこと」 「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力」 算数:「図形」に伴って変わる2つの数量「自分の考えを説明する力」 理科:「ものあたため方」「実験経過や結果を科学的に説明する力」	・「書く力」「考えを筋道立ててまとめ、説明する力」が不十分。 ・「記述式」の問題での無解答率がどの教科でも約10%と高い。 ・自分が正しいと思ったことは、それを主張することができるかと答えた割合が44.2%、読書が好きと答えた割合が62%と少ない。(児童質問紙より)
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
指導の状況	・「授業で勉強したことがよく分かり、楽しくできた」と答えた児童は94%、「授業中、映像を見たりタブレットを使ったりして、自分の考えをもつことができた」と答えた児童は96%、「映像を見たり、タブレットを使った勉強は分かりやすかった」と答えた児童は97%であった。(1学期末アンケートより) ・毎時間、「自分の考えをもつ時間の確保している」「賞賛や励ましの言葉を児童にかけている」と答えた教職員は100%、「友達の色々な考えやよさ等を認める場を設定している」と答えた教職員は96%であった。(1学期末アンケートより)	
	1 組織的な授業改善の取組状況	
	・伝え合いによる思いやりと向上心のある児童・生徒の育成を目指した授業づくり(植田南中校区 小中一貫教育共通)で、思考を促す発問提示やねらいに迫る課題の工夫、ペアやグループなどの小集団活動を取り入れた話し合い活動を検証していく。 ・各種学力調査の分析結果から明らかになった課題を解決する取組を学年で決めて、2学期から実践し、学期末に振り返り、3学期につなげる。	
2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況		
・学習規律の徹底(特に、植田南中校区 小中一貫教育共通の取組:授業前後の挨拶、授業準備、話の聞き方等)のため、学習ガイドを教室に提示し、学期末に振り返り、次学期につなげる。 ・指導体制の工夫(習熟度別学習、個別指導、ローテーション道徳、教科担任制等)、ICTの活用、学年間での教材研究を行っている。 ・家庭学習の習慣化については、学級懇談等で重要性を伝え、89%の保護者が肯定的回答をした。(1学期保護者アンケートより)		

学力に関する達成指標

- 国語・算数の単元末テストが8割以上に達した児童を83%以上にする。
- 全国学力学習状況調査、大分県学力定着状況調査において、校内平均正答率が目標値を超える。

今後の具体的な取組	【授業改善】	【家庭・地域との協働】	
	〈授業改善のテーマ・重点〉 〈授業改善テーマ〉 授業の工夫改善により、主体的に学び高め合う子どもの育成 〈授業改善の重点〉 ○新大分スタンダード・大分市授業力ハンドブック、生徒指導の3機能を意識した授業展開の工夫 ○家庭学習の工夫、小中一貫学習規律の定着、教科担任制や補充学習等の導入 ○各種学力調査の課題解決の取組 :「書く力」「説明力」「学習と生活をつなげる力」		〈家庭・地域の取組内容〉 ・担任は、毎日、児童の実態に合わせた家庭学習の内容を工夫し取り組ませる。 ・担任は、児童や保護者に、家庭学習の重要性・習慣化を、学級懇談、通信等で伝えていく。
	〈取組内容〉 ・授業者は毎時間、「自分の考えをもつ時間の確保」「賞賛や励ましの言葉かけ」「友達の考えを認める場の設定」を行う。 ・授業者は、単元の適切な場面で、ICT機器を用い、問題提示を分かりやすくしたり、操作活動等を取り入れたりしながら、児童が自分の考えをもてるようにする。 ・各種学力調査分析結果で明らかになった課題を解決する取組を学年で実践する。		〈家庭・地域の取組指標〉 ・児童に家庭学習を提出するよう、週に1回以上、声をかける。 ・家庭学習の内容を工夫(授業と連動させる)基礎基本に取り組み・宿題の量を実態に合わせる)して、提出率を100%にする。
	〈取組指標〉 ・生徒指導の3機能を意識した授業を行い、「授業が分かった」と感じる児童を90%以上、タブレット等を効果的に活用し、主体的な学びのある授業を行うことにより、「自分の考えをもつことができた」と感じる児童を85%以上にする。 ・各種学力調査の分析結果の課題を解決する取組を学年で決め、100%実践する。 ・国語・算数の単元末テストの前に、児童の実態を把握するため、プレテストを100%実施する。		〈家庭・地域の検証指標〉 ・小中一貫した学習指導(学習ガイド)の取組による、保護者の家庭学習の習慣化の肯定的回答を90%以上にする。 ・担任は、保護者に、学級懇談や学年通信等を利用し、家庭学習の習慣化を促していると肯定的回答をした教職員を100%にする。
	〈検証指標〉 ・国語・算数の単元末テストが8割以上に達した児童を83%以上にする。 ・「授業で勉強したことがよく分かり、楽しくできた」「授業中、映像を見たりタブレットを使ったりして、自分の考えをもつことができた」「映像を見たり、タブレットを使った勉強は分かりやすかった」と肯定的回答をした児童を90%以上にする。 ・毎時間、「自分の考えをもつ時間の確保をする」「賞賛や励ましの言葉を児童にかけ」「友達のどのような考えも認める場を設定する」を行ったと肯定的回答をした教職員を100%にする。 ・各種学力調査の分析結果の課題を解決する取組を、各学年100%実施する。		
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○小中一貫共通の「学習ガイド」「生活ガイド」を活用し、植田南中校区3校で課題を出し合い、共通の取組を行う。 ○基礎基本が定着していない児童や家庭学習が定着していない児童には、個別に指導し補充を行う。 ○読書指導で、児童の読書活動を充実させ、各学年が設定した目標冊数を達成させる。		